



清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト

第2回 リーダーシップ研修 | 合同開催
第2回 化粧品健康学セミナー

哺乳類の再生現象

毛の再生から四肢の再生へ

〈性別や国籍を超えたコラボレーションを目指して〉

受講料
無料

平成29年

日時

10月27日 15:00~16:30

場所

岐阜薬科大学本部 大学院講義室



講師 **伊藤 真由美 先生**

ニューヨーク大学医学部皮膚科 准教授

Profile

1998年名古屋大学理学研究科修了後、カネボウ株式会社基礎科学研究所に入社し、毛包再生の研究に携わる。ペンシルバニア大学医学部にて毛包幹細胞の研究を行った後、ニューヨーク大学医学部にて自らの研究室を立ちあげ、皮膚の再生や幹細胞制御における新しい理論を確立した。

講演概要

再生能力が限られた哺乳類であっても、皮膚は非常に高い再生能力を示す。最も顕著なのは、毛を作る毛包組織の再生現象である。毛包組織は、上皮-間充織の相互作用で完成する複雑な器官であるにも関わらず、定期的に退縮、再生を繰り返す。このような再生能力は、毛包に存在する幹細胞により維持されている。

また、マウスでは傷などにより毛包が失われた際にも、幹細胞を含めて毛包全体を再生することができる。この過程では、毛包発生過程を司る遺伝子が再活性化することが示されている。

一方、哺乳類は、肢を切断した後に、元通りに再生することはできない。なぜ毛包のように、胎児期のようなプログラムを誘導して失われた部分を再生できないのだろうか。胎児における器官形成では、多くの異なる器官が似たような分子機構を共有している。組織を失った後の再生過程ではどうだろうか。我々は最近、毛包再生の研究を肢の再生の研究に応用することを目指す研究もスタートした。

今回の講演では、このような試みから得られた哺乳類における器官再生の基礎をなす原理について論じたい。

主催:



岐阜大学



岐阜薬科大学



岐阜女子大学



API株式会社

お問い合わせ先



岐阜薬科大学 ダイバーシティ推進室 〒501-1196 岐阜市大学西1-25-4

Tel: 058-230-8100 Fax 058-230-8105 e-mail: diversity@gifu-pu.ac.jp